医薬品リスク管理計画
（RMP）

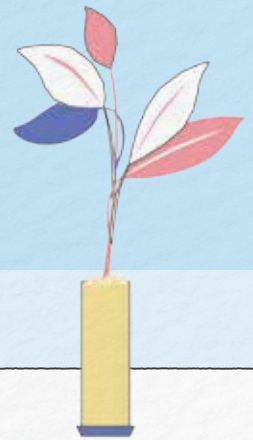
ミチーガを使用される方へ

― アトピー性皮膚炎のかゆみ ―

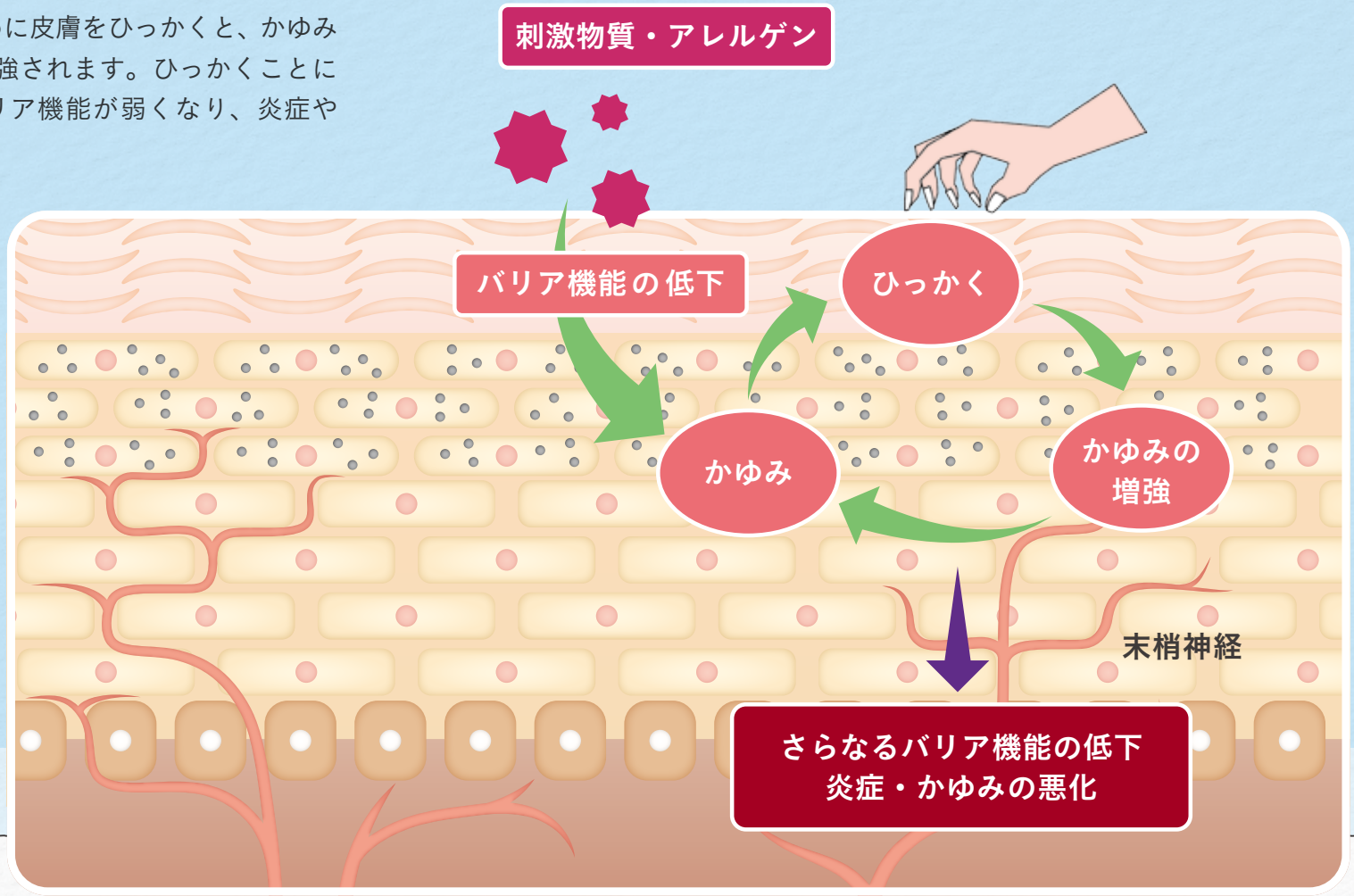
監修：五十嵐　敦之 先生（NTT東日本関東病院　皮膚科　部長）

アトピー性皮膚炎のかゆみとは

アトピー性皮膚炎では、皮膚のバリア機能が弱まっているため、外からの異物(刺激物質・アレルゲンなど)が皮膚の中まで入り込みやすくなっています。
そうすると、かゆみや炎症などの原因となる体内の物質が増加し、かゆみなどの症状を引き起こします。かゆみのために皮膚をひっかくと、かゆみが抑制されるのではなく、逆にかゆみが増強されます。ひっかくことによりその部位の皮膚は傷つき、さらにバリア機能が弱くなり、炎症やかゆみをまねくという悪循環に陥ります。
この悪循環はイッチ・スクラッチ・サイクル（かゆみと掻破［そうは：皮膚をかくこと］の悪循環)と呼ばれ、アトピー性皮膚炎が長引き、悪化する原因となります。



かゆみは睡眠不足や集中力の低下など、生活の質（QOL）に大きな影響を与え、また、かゆみに対する不安があると、通常よりもかゆみを感じやすくなることがわかっています。



ミチーガはアトピー性皮膚炎のかゆみを おさえる、新しいタイプの薬です

一般的なアトピー性皮膚炎の治療は、ステロイド外用剤やタクロリムス外用剤などで「炎症」をおさえ、これに保湿外用剤で「皮膚のバリア機能の低下」を防ぐという組み合わせです。
ここに「かゆみ」の原因物質のはたらきをおさえる薬である**ミチーガ**という注射剤が新たに加わりました。
ミチーガは、アトピー性皮膚炎の炎症やかゆみの原因となる物質のうち、IL-31（インターロイキン31）※のはたらきをブロックすることによってアトピー性皮膚炎のかゆみをおさえる、新しいタイプの薬です。

ミチーガを使用できるのは、どのような患者さんでしょうか

従来のアトピー性皮膚炎の治療薬※である炎症をおさえる塗り薬及び抗アレルギー剤を使用して、治療を一定期間行っても、かゆみが改善しない、13歳以上のアトピー性皮膚炎の患者さんが使用できます。

※従来のアトピー性皮膚炎の治療薬

- **炎症をおさえる塗り薬**
  ステロイド外用剤
  タクロリムス外用剤
  デルゴシチニブ外用剤　など

＋

- **抗アレルギー剤**
  抗ヒスタミン剤　など

ミチーガを使用できないのは、どのような患者さんでしょうか

ミチーガに含まれている成分に対して過敏症を起こしたことがある患者さんは使用できません。

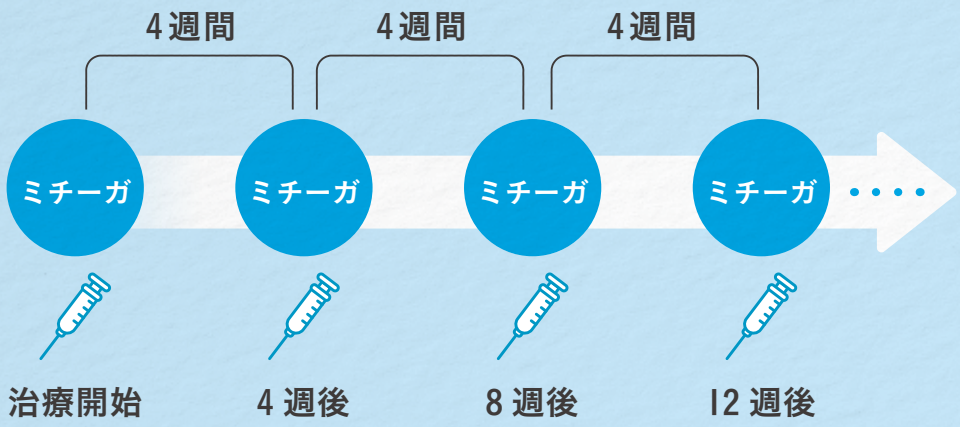
次の患者さんでは、ミチーガによる治療を受けることについて注意が必要です

以下に該当する患者さんは主治医にご相談ください。

- 妊娠中、または、妊娠している可能性のある患者さん
- 授乳中の患者さん
- 長期ステロイド内服療法を受けている患者さん
  ▶ 経口ステロイド剤を服用している場合、ミチーガによる治療開始後に経口ステロイド剤を急に中止しないでください。必ず主治医の指示に従ってください。

ミチーガの投与スケジュール

ミチーガは、通常、4週間に1回ずつ皮下注射します。



ミチーガ治療中にご注意いただきたいこと

ミチーガによる治療を受けている間は、下記のことにご注意ください。

- **かゆみがおさまっても、処方された他の治療薬は主治医の指示通りにしっかり使用してください。**
  ▶ミチーガはアトピー性皮膚炎のかゆみをおさえる薬です。ステロイド外用剤、タクロリムス外用剤、デルゴシチニブ外用剤、保湿外用剤など、アトピー性皮膚炎の他の症状に対する治療は中止しないでください。
- **ミチーガ治療中も、保湿外用剤で皮膚を保湿するようにしてください。**
- **ミチーガ治療中であることを、他の医療機関でも伝えるようにしてください。**

ミチーガ治療中に予想される主な副作用

ミチーガの使用により起こる可能性のある副作用を知っておきましょう。副作用は必ず起こるというものではありませんが、早めに気づいて対処することが大切です。

感染症

ヘルペス感染、蜂巣炎（蜂窩織炎）、膿痂疹などの皮膚の感染症や、上気道炎などの全身の感染症がみられる場合があります。いつもと違う皮膚の症状や、発熱、せき、のどの痛みなどのかぜの症状を感じた場合は、必ず主治医もしくは看護師、薬剤師にご連絡ください。

過敏症・注射部位の症状

一般的に、過敏症は、薬が体質に合わない場合に起こります。
ミチーガの使用により、血圧低下、息苦しさ、意識の低下、ふらつき、めまい、吐き気、嘔吐などの症状がみられた場合は、すぐに主治医にご連絡ください。
その他、ミチーガを注射した部位の皮膚に内出血、赤み、はれなどの症状がみられることがあります。このような症状がみられた場合も、主治医もしくは看護師、薬剤師にお申し出ください。

皮膚症状の悪化

ミチーガ治療中に、アトピー性皮膚炎の悪化や紅斑、じんま疹、湿疹などの皮膚症状の悪化がみられる場合があります。かゆみがおさまっていても、普段とは異なる新たな皮疹が出てきたり、皮疹が悪化した場合は、すぐに受診してください。

※こちらで紹介したもの以外にも、気になる症状が出た場合には、主治医にご相談ください。

日常生活で気をつけること

アトピー性皮膚炎の症状は、皮膚への刺激やストレスの影響を受けて悪化することがあります。以下のような点に気をつけて規則正しい生活を送るようにしましょう。

睡眠中に皮膚をかかない工夫

- 爪を短くしておく
- 手袋をはめる
- パジャマは長袖、長ズボンのものを着用する

アレルゲン対策はしっかりと

- ダニ、ホコリがたまらないよう、なるべく毎日掃除する
- 特に布団のダニ対策はしっかり行う
- ペットはなるべく避ける

皮膚に刺激を与えない衣類を選ぼう

- チクチク、ごわごわした素材、毛糸素材の衣類は避ける
- 新品の服は一度洗濯してから着る
- 洗剤のすすぎ残しがないように、すすぎを十分に行う

からだを清潔に保とう

- 汗やよごれはできるだけ早く落とす
- 石けん・シャンプーはよく泡立てて使い、しっかり洗い流す
- 入浴後はすぐに保湿を行う

その他

- ストレスを発散させる自分流の方法をみつける
- 刺激の強い食べ物やアルコール、タバコは控える
- 規則正しい生活を心がける

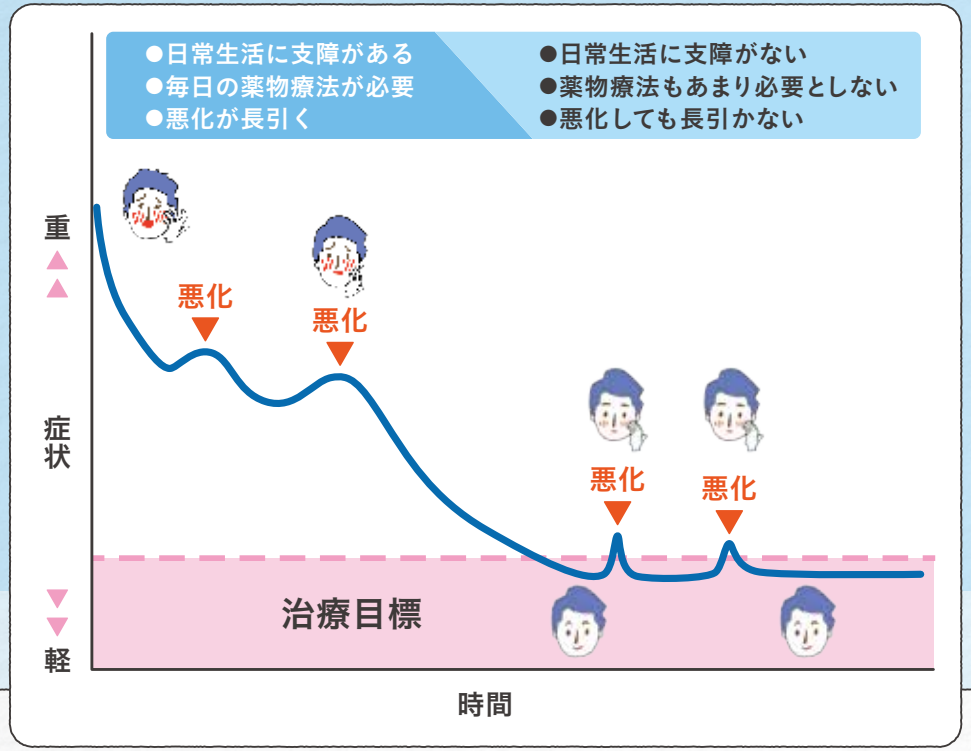
治療の目標

アトピー性皮膚炎は適切な治療を続ければ、寛解（症状が落ち着いて安定した状態）が期待できる疾患です。適切な治療、スキンケア、悪化因子対策を続けて、寛解を目指しましょう。

【治療の目標】

- **症状がない、または軽微で、日常生活に支障がなく、薬物療法もあまり必要としない状態になること。**
- **軽い症状はあっても、日常生活に影響するような急な悪化が起こらない。または悪化しても長引かないような状態になること。**

日本皮膚科学会・日本アレルギー学会　アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2021 年度版　一部改変



ミチーガ治療のQ&A

Q　かゆみがおさまれば、ミチーガによる治療を中止してもよいですか。

A　アトピー性皮膚炎は良くなったり悪くなったりを繰り返す疾患です。かゆみがいったんおさまったとしても、治療を中止すると悪化することがあります。中止してもよいかどうかは、主治医に相談してください。

Q　ミチーガによる治療を始めても、かゆみがおさまりません。

A　患者さんによって異なりますが、通常はミチーガによる治療開始から16週頃までには効果が現れます。16週を超えても効果がみられない場合には、主治医に相談してください。

Q　ミチーガを使用してから1ヵ月を過ぎましたが、忙しくて病院に行けないので、しばらく使用しなくても問題ないですか。

A　ミチーガは、通常4週（1ヵ月）ごとに使用します。できるだけ速やかに医療機関を受診して医師に相談してください。

医療機関名

＊本資材は医薬品リスク管理計画に基づき作成された資材です。

提供 maruho マルホ株式会社

5019601

2022年5月作成
A0522EY-EMC